【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成27年5月28日(2015.5.28)

【公開番号】特開2014-158818(P2014-158818A)
【公開日】平成26年9月4日(2014.9.4)
【年通号数】公開・登録公報2014-047
【出願番号】特願2014-41154(P2014-41154)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０
Ａ６３Ｆ　7/02　３１５Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月1日(2015.4.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御する遊技機であって、
前記有利状態に制御するか否かと、前記有利状態に制御すると決定されたときに、通常状態と該通常状態であるときに比べて前記有利状態となりやすい特別状態のいずれに制御するかとを決定する決定手段と、
所定状態移行条件が成立したときに、第１期間または該第１期間よりも長い第２期間に亘って所定状態に移行させる所定状態制御手段と、
遊技状態が前記所定状態に移行した後に、前記通常状態であるときと前記特別状態であるときとで共通の演出を実行する共通演出実行手段とを備え、
前記共通の演出として、複数種類の演出があり、
前記共通演出実行手段は、
前記第１期間が終了するときに、前記複数種類の演出のいずれを実行するかの報知を行う第１報知手段と、
前記第１報知手段による報知が行われた後、前記所定状態が継続している場合には、前記複数種類の演出のいずれを実行するかの報知を行う第２報知手段とを含み、
前記特別状態であるときには、前記第１報知手段による報知が行われた後に実行される演出と前記第２報知手段による報知が行われた後に実行される演出との組み合わせのうち、特定の組み合わせを高い割合で選択する
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明は、可変表示を行う可変表示手段に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態に制御するパチンコ機やスロット機などの遊技機に関する。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
（１）本発明による遊技機は、可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段（例えば、特別図柄表示器や演出表示装置９）に特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御する遊技機であって、有利状態に制御するか否かと、有利状態に制御すると決定されたときに、通常状態と該通常状態であるときに比べて有利状態となりやすい特別状態のいずれに制御するかとを決定する決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ６１，Ｓ７３の処理を実行する部分）と、所定状態移行条件が成立したときに、第１期間（例えば、時短状態に移行してから１０回の可変表示が終了するまで）または第１期間よりも長い第２期間（例えば、時短状態に移行してから２０回の可変表示が終了するまで）に亘って所定状態に移行させる所定状態制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ８９３，Ｓ８９４の処理を実行する部分）と、遊技状態が所定状態に移行した後に、通常状態であるときと特別状態であるときとで共通の演出（例えば、モード演出）を実行する共通演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ８３１～Ｓ８３３の処理を実行する部分）とを備え、共通の演出として、複数種類の演出（例えば、確変可能性小モードの演出の演出、確変可能性中モードの演出、確変可能性大モードの演出：図４０参照）があり、共通演出実行手段は、第１期間が終了するときに、複数種類の演出のいずれを実行するかの報知を行う第１報知手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ８５６の処理（変動回数カウンタの値が１０であるときにステップＳ５０５の処理で演出モード切替フラグがセットされたことにもとづいて）を実行する部分）と、第１報知手段による報知が行われた後、所定状態が継続している場合には、複数種類の演出のいずれを実行するかの報知を行う第２報知手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ８５６の処理（変動回数カウンタの値が２０であるときにステップＳ５０５の処理で演出モード切替フラグがセットされたことにもとづいて）を実行する部分）とを含み、特別状態であるときには、第１報知手段による報知が行われた後に実行される演出と第２報知手段による報知が行われた後に実行される演出との組み合わせのうち、特定の組み合わせを高い割合で選択する（図３９参照）ことを特徴とする。
　そのような構成によれば、所定状態の継続期間とモード演出とを連動させて、特別状態に制御されることに対するより高い期待感を遊技者に与えることができ、遊技の興趣がより向上する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
（２）上記の（１）の遊技機において、所定状態は、可変表示の実行頻度が高められる状態（例えば、時短状態）であり、決定手段が有利状態に制御することに決定した場合に、有利状態となる前に有利状態になることの告知を実行する告知手段（例えば、演出制御用

マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ５２４の処理で大当り告知を行うことに決定した後、ステップＳ８３１～Ｓ８３３の処理を実行する部分）を備え、遊技状態制御手段は、遊技状態が所定状態であるときに決定手段が有利状態に制御することに決定した場合には、有利状態が終了した後の遊技状態を、第２期間よりも長い第３期間（例えば、時短状態に移行してから１００回の可変表示が終了するまで）に亘って継続する所定状態に移行させ、第２期間が終了するまでの所定状態では告知手段による告知の実行を禁止する告知禁止手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、ステップＳ５２１，Ｓ５２２の処理を実行する部分）をさらに備えていてもよい。

そのような構成によれば、有利状態となるまで、第３期間に亘って継続する所定状態に対する期待感を遊技者に維持させることができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
（３）上記の（１）または（２）の遊技機において、共通演出実行手段は、可変表示が開始されてから有利状態が開始されるまでの間に（例えば、演出図柄変動停止処理において）報知を行い、決定手段により有利状態に制御すると決定された場合には、共通演出実行手段より報知が行われた後に有利状態に制御されることを報知する演出を実行する特定報知演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００において、図３５に示すステップＳ８４２～Ｓ８４４の処理や図３６に示すステップＳ８５２の処理を実行する部分：すなわち、ステップＳ８５２の処理は、成否演出を実現するステップＳ８４２～Ｓ８４４の処理の後に実行される）を備えていてもよい。

そのような構成によれば、特別状態に制御されているか通常状態に制御されているかを報知する演出の興趣を低下させないようにすることができる。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
（４）上記の（１）～（３）の遊技機において、共通演出実行手段は、可変表示が開始されてから有利状態が開始されるまでの間に（例えば、演出図柄変動停止処理において）報知を行い、共通演出実行手段は、決定手段により有利状態に制御すると決定された場合には、特別状態に制御されていることに対する期待度が低い種類の演出に制御される旨の報知を行う（例えば、図３６に示すステップＳ８５６の処理でチャンスモードの報知を行う）ように構成されていてもよい。

そのような構成によれば、遊技者が失望感を抱いた後に有利状態に制御することができ、遊技の興趣がより向上する。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
（５）上記の（１）～（４）の遊技機において、決定手段の決定結果にもとづいて、可変表示時間を選択する可変表示時間選択手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ９３，Ｓ９４，Ｓ１０２，Ｓ１０３，Ｓ１０４の処理を実行する部分）を備え、共通演出実行手段は、可変表示が開始されてから表示結果が導出表示さ

れるまでの間に（例えば、演出図柄変動停止処理において）報知を行い、可変表示時間選択手段は、共通演出実行手段が報知を行うときの可変表示時間として報知の演出を実行可能な可変表示時間を高い割合で選択する（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０が、ステップＳ９３の処理を実行する）ように構成されていてもよい。

そのような構成によれば、報知の演出の実行時間を確保することができる。